

言葉の背景にある情報を教える

～ 第一学年の指導を通して ～

渡 部 睦 浩

I はじめに

平成5年、7月19日から8月12日の25日間、アメリカ合衆国オハイオ州、ケント州立大学において実施された、第12回島根大学アメリカ夏期研修会に参加した。研修の内容は大学の二名の講師による講義を中心としたもので、内容も言語・文化の種々の様相にわたる多彩なものであった。特に現存する人種偏見に関するものやアメリカの銃規制の問題からは、強い衝撃を受けた。見るもの聞くものがすべてが新鮮で、初めて英語を習った頃に戻ったような気がした。

当初からの渡米の狙いは、米国での風俗習慣を実体験し、肌で感じ取ること、今後の英語科での授業に使う映像資料のための撮影をすることであった。新聞や雑誌も約1カ月分収集した。今までは知らなかった情報や、入手できなかった情報ををかなり手元に置くことができたような気がする。また、撮影した写真やスライドは、実際に使用してみると生徒の評判もよく、アメリカでさかんに行われているリサイクル運動、禁煙が実に厳しいこと等も理解させやすかった。さらに1年生の教科書 (*Sunshine English Course 1*) の中のPROGRAM 7ではワシントンD.C.が教材となっており、生きた教材をふんだんに使用することができた。

“Seeing is believing.” (百聞は一見にしかず) はかなり使い古された言葉ではあるが、自分が日頃、教壇に立ち教えている「本物の」英語を体験できたことは貴重な財産となった。ここにその一部の資料をもとに、アメリカにおける言語現象を考察し、その背景に見えかくれするアメリカ社会について考えてみたい。

II 言語の背景にある情報

1. mailbox

mailboxとは街角にある「郵便ポスト」と「個人宅などの郵便受け」のことである。AHDELによれば、mailboxは

1. A public container for deposit of outgoing mail. Also called *postbox*.
2. The private box for incoming mail. Also called *letterbox*.

[AHDEL, s.v. mailbox 1,2]

となっている。では、この2つは実際にどんな形をしていて、どんな使われ方をしているのか考察する。

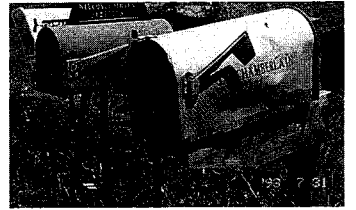
(1) 個人宅用郵便受け

『ライトハウス英和』(1990)によれば「米国の郊外やいなかでは、送りたい郵便物を郵便受けに入れて郵便受けについた旗を上げておくと、回ってきた集配人が持っていってくれる。」とある。ではこの「旗」とはどんなものなのか。

下の写真1にはmailboxが写っている。これはMichigan州、Leslieという田舎町で撮影したものである。手前と、中央に赤い金属製の取っ手のようなものが『ライトハウス英和』の記述にある「旗」である。インフォーマントに聞いたところ、確かにこの部分をflag呼ぶことが確認できた。さらにこの「flagを上げる」の英語は、*pick it (the flag) up*か*go up*を使うという。さらに別のインフォーマントによれば、*put it (the flag) up*を使い、おろすときは*put it down*であるという。また田舎では後述する郵便ポストが近くにないため、個

人宅の郵便受けに投函したい手紙を入れて、目印としてflagを上げておくと、集配人が回収してくれて便利であるとの情報も得られた。集配人は郵便物を取った後flagを下げ、またもとの状態にしておくという。写真2から投函の時の情報が得られる。ここでもFROM YOUR CURBLINE MAILBOX - when the mailbox flag is raised. とあり確実な情報である。

写真1



しかし日本語の「旗」は「布や紙製のもので作り、竿などの先に掲げて印とするもの」を連想させる(『大辞林』)。あえて記述するとすれば「flagと呼ばれるもの」とし、誤解を避けるために写真による解説が必要であろう(cf.山田ほか 1982)。

写真2

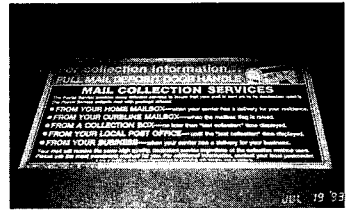


図1は新聞広告のなかにあったmailboxである。商品説明にGalvanized Mailbox(亜鉛メッキされたmailbox)とある。消費者は耐久性を重視していることが、これからうかがえる。

(2) 郵便ポスト

図1

写真3はケント州立大学内に設置してあるmailboxである。写真4はカナダのナイアガラの滝周辺に設置してあるmailboxである。カナダのものは集収日の説明にフランス語と英語が使用されており、カナダで二言語が使用されている状況がよく分かる。また色も米国と違い赤色である。『ジーニアス英和』によればmailboxは「米国では箱形で一般に青色.英国のpillar boxは円柱で赤色」とある。篠田(1989)を見ると、ポストにより集収日や集収時間が著しく違う点や、「荷物を送る際に、セロテープ(scotch tape; cellophane tape)やマスキングテープも絶対に使えない」とあるが特に「」の引用部分の記述は疑わしい。

米国の一般的な青いタイプ以外の郵便ポストがある。写真5が速達用のポスト。うたい文句はEXPRESS MAIL/NEXT DAY SERVICEとあり写真3とは配色が違う。このEXPRESS MAILの他の宣伝文句としては、OVERNIGHT TO MANY DISTANT CITIES(多くの遠い町まで一晩で)やHERE TODAY/THERE TOMORROW/NEXT DAY DELIVERY/IT'S GUARANTEED!(今日投函なされば、明日配達されます。翌日配達を保証します。)などがある(篠田1989)。

写真3



写真5

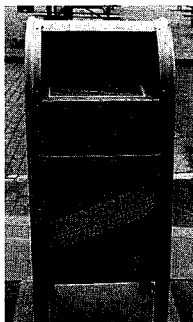
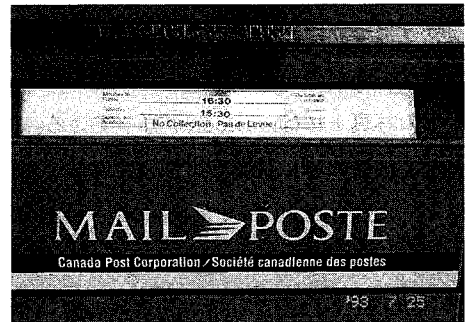


写真4



2. Express Mail Package

写真6はケント市の郵便局で入手したExpress Mail package（速達用の大型封筒）である。封筒の裏にはこの大型封筒の投函までの手順が書かれている。その手順とは、

HOW TO USE:

1. COMPLETE LABEL Type or print required information in customers block (blue area)
2. PAYMENT METHOD Affix postage or meter strip to area indicated in upper right hand corner.
3. ATTACH LABEL Remove label backing and adhere over these instructions.
4. DROP OFF/PICK UP

Call for our convenient pick-up service (One low fee no matter how many pieces) or drop off your Express Mail package at a post office, an Express Mail collection box or with any letter carrier.

とある。写真7はこの大型封筒にはる用紙で、labelと呼ばれこれに必要事項を記入しなければならない。

写真8によって、この他にもEXPRESS MAIL INTERNATIONALやPRIORITY MAIL用のpackageがあることが分かる。

写真6



写真7

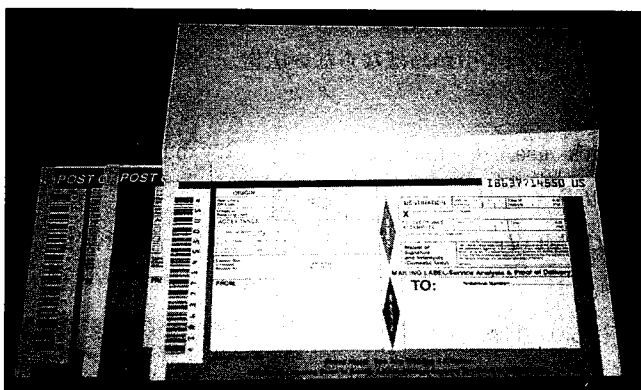
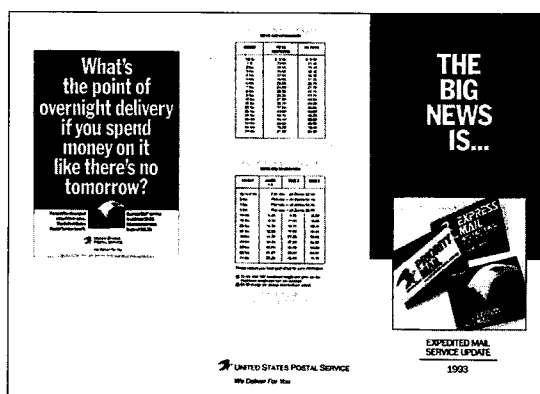


写真8



米国郵政公社はUnited States Postal Serviceである。またその象徴はbald eagleである。このbald eagle（ハクトウワシ）は、1782年以降国章であり、様々な郵政公社のパンフレット類に登場する。写真6、8にも大きくこのハクトウワシが使用されている。また一般の郵便ポストにも、デザインされたハクトウワシがしばしば使用されている。

3. Manufacture's coupon

手間ひまや労力をいかに節約するかという発想でできた商品群は、一見も二見も価値がある。メキシコ、イタリア、中国、フランス料理と各国の名物料理からダイエット食品に至るまでいたれりつくせりの冷凍食品がある。だが、残念ながら、今のところ日本の冷凍食品にはまだお目にかかったことがない。

最後に、日本と様子が違うのは、お金を精算するときを使うクーポン。10セントから1ドルまでの割引券を、サイフのようなクーポン入れから出して使うのだ。

それは、新聞の日曜版の中の広告に入っている。日曜の夜、ハサミを片手にチョコキチョコキ切るのがアメリカ人の楽しみなのだ。

—アントラム 柏木 (1993:141-142)

アメリカの商品広告に多く見受けられるのがこのクーポンで、Manufacture's couponと書かれている。他にはManufacture couponやMFR'S COUPONという表示もある。なにもそれらしい記述のないのもあり実に様々なものがあって面白い。上述のように、アメリカ人の楽しみらしく「これで、何ドル節約できる、と数える快感！これを感じ始めたら、あなたもアメリカ人の仲間入りよ」ということである。

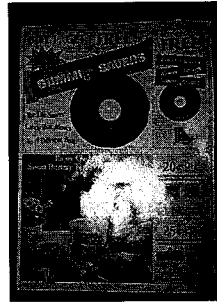


写真9

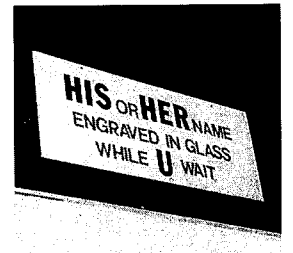


写真9はこのクーポンである。消費者の目をしっかりつかまなければならない為、Save 25¢の文字が大きい。これらのクーポンにはバーコードがそれぞれ印刷されている。インフォーマントによればどの店もバーコードを読みとる機械を備え付けているわけではなく、使われないこともあるようである。言い方も単にcouponとしか言わないという。使い方も、きちんと切る人やインフォーマントのように必要な部分をちぎって持って行くこともあるという。

写真10

4. His or Her Name Engraved in Glass While U Wait

写真10はカナダ、ナイアガラの滝の近くにあるMaple Leaf Villageにあった店の看板である。ほんの数分間に客の注文する文字をグラスに入れてくれる店である。その看板は 'you' の代わりに 'U' を使っていた。同じような例はBAR-B-Q (Barbecue) Nite (Night) Thru (Through) などがあつた(篠田 (1989) にも多数収録されている。なぜこのような現象が起こるのか。見るものの注目を引かねばならない広告の特徴のためであろう。COEDは次ように記述している。



YOU *pron., esp in U.S. commercial and Black use.* U-Haul (U.S. proprietry name for) a small rented truck or a trailer. See also IOU. [COED s.v. U 1.1.b.]

このCOEDの記述の中に出てくるU-Haulの宣伝はU-MOVE/U-HOUL/U-STORE (自分で運転して、自分で運んで、自分で倉入れする) である(篠田 1993)。

一方IOUはこの綴りの他、I.O.U.やi.o.u.の綴りもあり、「略式の借用証書」のこと(『リーダーズ英和』)。COEDはこのIOUについて次のように記述している。

IOU [= 'I owned you' .] A document bearing these three letters followed by a specified sum,

and signend, constituting a formal acknowledgment of a debt.

このような語の省略は知っていないと、看板の意味が分からないことがあり重要である。写真11はケント州立大学の近くにあるローラースケート場の看板であるが、nightの代わりにNITEとなっている。

写真11



5. license plate / licence plate

アメリカで興味を惹かれたものの中に、自動車のナンバープレートがある (cf.山田 1984)。ちなみにnumber plateはイギリス英語でありアメリカ英語ではlicense plateである。このlicense plateは州によって実に様々で、収録していて特に面白いものであった。次の表はプレートにある、州の名前、登録の番号、州の宣伝文句をまとめたものある。

言葉の背景にある情報を教える

州	宣伝文句	番号
1 MICHIGAN	GREAT LAKES	LC 2171
2 MICHIGAN	STATE-OWNED	O2-0356
3 FLORIDA	DADE	HPA 14A
4 OHIO	VETERAN	V5LG
5 OHIO	The Heart of it all	MQH-344
6 OKLAHOMA	OK!	YYU 293
7 New Mexico USA	Land of Enchantment	057 CZW
8 Kentucky	Bluegrass State	AHL 655
9 Minnesota	10,000 lakes	337 BEM
10 WISCONSIN	America's Dairyland	HZC-923
11 NEW HAMPSHIRE	LIVE FREE OR DIE	AXB-461
12 PENNSYLVANIA	KEYSTONE STATE	TVT-094
13 Pennsylvania	You've got a friend in	MWY-359
14 New Jersey	Garden State	ACV7369
15 IOWA	DALLAS	MQU 596
16 WEST VIRGINIA	Wild Wonderland	WA8CNN
17 NORTH CAROLINA	First in Flight	DWH-4242
18 Illinois	Land of Lincoln	90 039RV

写真12



写真13



5 のようにオハイオ州は普通The Heart of it allと書いてある。(写真12) インフォーマントによればこのitはアメリカのことでありオハイオ州がアメリカを人にとえた場合ちょうど人間の心臓部にあたることからこう呼ばれるということである。4も同じくオハイオ州のものであるが(写真13)これにはVETERANと書かれている。さらに車椅子の絵があることから、この自動車の運転手はもと兵役経験者であり今は車椅子を使用していることが推測される。5のようなlicense plateのことを特にvanity plateという。

2のSTATE-OWNEDは、州の所有する自動車についていたものであった。

(自動車などの)飾りナンバープレート [『ジーニアス英和』 s.v. **vanity**]

車の持ち主が選定した文字または数字あるいは文字と数字のナンバープレート。

[『リーダーズ英和』 s.v. **vanity plate**]

A license plate for a motor veicle bearing a combination of letters or numbers selected by the purchaser. [AHDEL s.v. **vanity plate**]

Michael Jordanという世界的に有名なバスケットボールプレイヤーがいるが、彼の所有する車のlicense plateはノースカロライナ州のものでM・AIR・Jとなっている。これは彼の名前MichaelのMとnicknameであるAir Jordanをもじったvanity plateである。

各州の宣伝文句を見ればその州の特産物やその州の持つ逸話がわかる。例えば8のケンタッキー州は確かに俗称でbluegrass (イチゴツナギ属の各種の草) stateと呼ばれる。またケンタッキー中部地方はBluegrass Region (Country) となっている(『リーダーズ英和』)。12のペンシルバニア州は独立当時13州の中央部に位置したことからKeystone (要石) stateと呼ばれる。ウィスコンシン州はアメリカのdairyland (酪農) の州であることも分かる。17のノースカロライナのFirst in flightなどアメリカのお国(州)自慢が自動車のプレートから読みとれるのである。このFirst in flight. はもとFirst in Freedom. であったが、苦情が出たため、1982年にWright兄弟にちなんで変更された(山田 1993)。

また同じような例としてvanity telephone number (AHDEL) がある。電話の数字とアルファベットが呼応しており(写真14) 会社、商品の宣伝として大いに活用できる。下の広告1、2、3はUSA TODAY (7/28/93) に掲載されていたものである。いずれも企業が宣伝用に使う無料電話 (toll free) であるが数字の代わりにアルファベットが使用されており、日本企業の電話番号でしばしば見うける語呂合わせに近い。

写真14



広告1

Over 1500 locations.
 And your GM Goodwrench
 Exhaust dealer is close by with
 over 1500 locations to serve you.
 For the nearest participating dealer,
 call **1-800-GM USE US** today—
 and be a part of a quiet revolution.
 Only at GM Goodwrench.

広告2

An Excellent Deduction
INCOME TAX FRANCHISE OPPORTUNITY
 Join the nationwide network of Jackson Hewitt Tax Service offices • 614 strong and growing!
 We offer:
 • Proven Operating Systems
 • Complete Training
 • Ongoing Field Support
 • Proprietary Software System
 • National Advertising and Public Relations
 The Leader for the 90's
JACKSON HEWITT TAX SERVICE 1-800-277-FAST
 Franchise Development
 Offering by Prospectus Only

広告3

BE YOUR OWN BOSS
 in a \$30 billion industry
 Low entry franchise. We'll show you the office maintenance cleaning ropes. Call for a free brochure.

1-800-827-OMEX
 OFFER MADE BY PROSPECTUS ONLY.

6. BLACK FOLK VOTE COLORED PEOPLE DON'T

写真15

写真15はケント州立大学内にあるDepartment of Pan-African Studiesの事務所にあったもの。blackとcoloredの語義や、人種差別問題を考えるのに適切な資料となった。このblackという語は、もと軽蔑的な語であったが黒人運動のスローガンに見られるように、人種的誇りを持って用いられた結果、現在ではnegroやcoloredよりも好んで使われる(『ランダムハウス英和』)。また、そのスローガンは“Black is beautiful.”である。一方colored (イギリス綴りは coloured) という表現は軽蔑的なもので、CCELDには次のように記述してある。



A person who is **coloured** belongs to a race of people who do not have white or pale skins.

...sometimes used offensively as a noun.

[CCELD s.v. **coloured 2.**]

Bennet (1993) にはWHITEとCOLOREDと別々になっているwater fountainの写真がある。写真の正確な日付はないが、The Life and the Times of JIM CROWの章に掲載されているので、黒人差別が盛んであった時代のものであろう。白人用は現在の冷水機に近いものだが、黒人用のものは粗末な蛇口のついた手洗い用の陶器があるだけで、明らかに差別されている。このJim Crowという語は本田(1992)は次のように説明している。Thomas D. Rice (1808-60) が1930年頃、たまたまシンシナティーの路上でぼろ着姿の黒人の子供を見かける。その子供は「おいらの名前は、ジム・クロウ、まわれ、まわれ、ジム・クロウ、踊りで、はねまわれ。」という奇妙な歌を歌っていた。さっそくRiceはこれを取り入れ、自分も顔を黒く塗ったおどけた「黒人姿」でこの「歌と踊り」を世間にひろめ評判になった。このことがJim Crowという語が使用された始まりであるという。このJim Crowの語義は黒人差別(政策)や「黒人」「黒ん坊」を指し、侮蔑的表現である(『ランダムハウス英和』)。世間にこの語を広く知らしめたThomas D. Riceのショーもminstrel show(「白人が黒人に扮して行う、黒人生活を茶化した寄席演芸」『リーダーズ英和』)であった。

本間(1992)には black/negro/African-Americanという語についての興味深い調査結果が引用されている。1990年の調査によると、黒人の中で自分のことをblackだと思っているものは78%、African-Americanであると考えたいものは20%、negroは2%である[Hacker (1992)]。さらにシュレンガーによれば同じく1990年の調査で、黒人の66%がAfrican-Americanよりblackがよいとしており、1991年の調査ではblackとAfrican-Americanの比率が72:15となっている。なおBennet (1993) は筆者がGloria McCulloughという黒人女性より提供してもらったものだが、「アメリカ黒人の歴史」の黒人にあたる語はAfrican Americanであった。

新聞ではblackという語が多く使われている。USA TODAY (7/23-25/93)には次のような見出しで、麻薬と人種に関する記事が載った。

STEREOTYPES FUEL DRUG CRISIS, 6A

IS THE DRUG WAR RACIST?

Blacks are four times as likely as whites to be arrested on drug charges

-even through the two groups use drugs at almost the same rate.

Drugs arrests per 100,000: Blacks 1,609 Whites 408

U.S. adults who use useful illegal drugs within the past year:

Nationwide 13% Whites 12% Blacks 16%

Sources: USA TODAY analysis of drug arrest records filed with

the FBI; NIDA Household Survey on Drug Abuse, 1991 (latest available)

この検挙率の差が生じる背景には、黒人が街角や都外で麻薬を売買しているため検挙しやすい(一方で白人が屋内や事務所を使っている事実がある)のだと警察はしている。したがって黒人に対する人種偏見から検挙率に差がでる、ということではない。しかしこのように白人と黒人の検挙率を人種を区別した上で比較し、記事にすること自体、人種問題が存在することを証明している。

7. Recycle

日本でもrecycleが盛んであるが、ケント大学内では、より徹底した回収をするためのものを多く目にした。写真16はEnglish Department内で撮影した。paperとaluminum cans用に分けて設置されている。写真17は大きなふたのついた箱でthe recycling collection containerまたはthe recycling collection binsと記述されている(写真18)。binとはA container or enclosed space for storage (AHCD) のことであり、「集積貯蔵容器」のことである(『リーダーズ英和』)。写真19は写真17よりもずっと小さいbin/containerである。写真18の記述

内容に注目してみると、普段、英語としてあまりなじみのない、生活に関する語が発見できる。紙類の項目に Flyers (Fliersともつづる) とあるが、これは「ちらし、広告、ビラ」のこと(『リーダーズ英和』)。以下、brochures「パンフレット／小冊子／ちらし」(『ランダムハウス英和』) cardboard「厚紙、ボール紙」/Food jar「陶器製、ガラス製の広口瓶」/Fabrics「織物」/Styrofoamなど日常生活に関連した語が、一枚の写真から分かって良い。このStyrofoamは米国Michigan州のThe Dow ChemicalCo. (1947年操業) 製の発砲スチロールの一種1950年商標登録されたもので、polystyreneと-o-とfoamからの造語である(山田1990)。

写真16

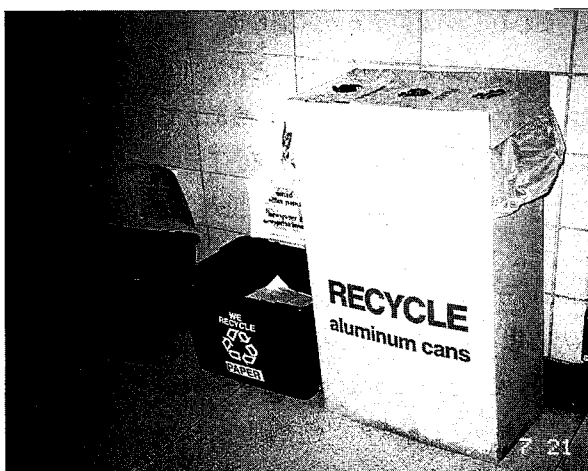


写真17



写真18

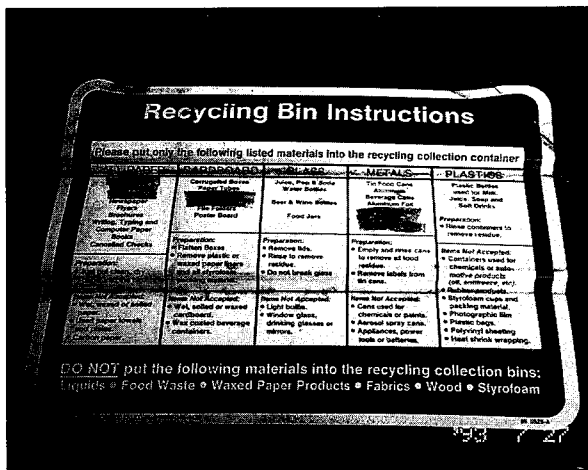


写真19



参考 2



Ⅲ まとめと今後の課題

以上、アメリカで見聞したことをもとに、手元にある資料で興味を惹かれたことについて書いてきた。調査しきれないものや、考察に時間を必要とするものがまだまだある。特に人種差別や、黒人特有の語は、アメリカの歴史と、現在の白人と黒人を含めた他の人種間の問題・社会情勢とを十分理解した上で考察してみたいと強く感じた。

現場にいる英語教師の仕事は、大きく分けて二つにまとめることができると思う。一つめはやはり「英語そのもの」の研究である。そして二つめが、より効果的に英語を生徒に教えるための研究である。英語の分野と全く関係のない話で恐縮だが、藤原正彦という数学者がいる。『若き数学者のアメリカ』という著書は数学を志すもの以外にも、新鮮な情報を与えてくれる。その中でアメリカの数学の教授陣の裏舞台が書かれているが、数学の教授にも二つの典型的なタイプがあるという。前者は数学そのものの研究に没頭する、研究中心主義の教授、後者は自分の研究もするが、同じく後継者の指導にも十分時間をさく、いわゆる教師型の教授である。tenureと呼ばれる終身在職権を手にするために、しのぎを削り、Publish or perish. という厳しい状況で研究に没頭するのは当然とも言える。また十分学生の面倒を見てやらなかったり、あまりに厳しい評価ばかりをすると自分の首がとぶという（藤原 1977）。数学の教授としてどちらが好ましいのか簡単に結論の出る問題でもなく、言及は避けることにするが、この研究と教科指導こそが教師に必要なことであるのは間違いない。

今後の課題としては今回と同じように、写真、雑誌、新聞、身近にいるインフォーマントから話題を発見し、言語現象やその背景にある情報について考察を続けていきたい。また今回取り上げていない、「教科として、いかに英語を教えるのか」という二つめの課題についても、研究を重ねていきたい。

末筆ながら、アメリカ研修に参加するにあたり、深い御理解と援助をして頂き、また本稿の原稿段階から指導、助言を与えて下さった山田政美先生に厚く御礼申し上げたい。

参 考 文 献

- The American Heritage College Dictionary*. Third edition. Boston: Houghton Mifflin Company. 1993.
[AHCD]
- The American Heritage Dictionary of the English Language*. Third edition. Boston: Houghton Mifflin Company. 1992. [AHDEL]
- The Compact Oxford English Dictionary*. Second edition. New York: OUP. 1991. [COED]
- Collins COBUILD English Language Dictionary*. London: William Collins Sons & Co Ltd. 1987 [CCELD]
- 『リーダーズ英和辞典』研究社, 1984。 [『リーダーズ英和』]
- 『ライトハウス英和辞典』第2版, 研究社, 1990。 [『ライトハウス英和』]
- 『ジーニアス英和辞典』大修館書店, 1988。 [『ジーニアス英和』]
- 『大辞林』三省堂, 1988。 [『大辞林』]
- 『ランダムハウス英和大辞典』小学館, 1993。 [『ランダムハウス英和』]
- Bennet, Lerone (1993), *Before The Mayflower — A History of Black America*. Sixth edition.
New York: Penguin books.
- Hacker, Andrew (1992), *Two Nations*.
- アントラム 柏木利美 (1993), 『日本とアメリカ逆さの常識』 東京: 主婦と生活社。
- 篠田義明 (1989), 『アメリカ英語最新ビジュアル辞典』 東京: 研究社出版。
- 藤原正彦 (1977), 『若き数学者のアメリカ』 東京: 新潮文庫出版。

渡 部 睦 浩

本間長世 (1992), 『多民族社会アメリカのゆくえ』 東京: 岩波ブックレット。

本田創造 (1992), 『アメリカ黒人の歴史』 東京: 岩波新書。

山田政美・山本 昭・山本文子 (1982), 『現代アメリカ名詞辞典』 東京: 荒竹出版。

山田政美 (1986), 『アメリカ英語の最新情報』 東京: 研究社出版。

—— (編) (1990), 『英和商品名辞典』 東京: 研究社。

—— (1993), 『現代アメリカ英語を追って』 東京: こびあん書房。

インフォーマント

Craig F. Paulenich

アメリカ合衆国、オハイオ州、ケント州立大学教授

現在 島根大学法文学部外国人教師

Brent A. Fair

アメリカ合衆国、オハイオ州、ケント州立大学 学生

現在 島根大学法文学部、研究生

資料提供者

安 田 順 一

田 中 順 子

(わたなべ むつひろ・英語科)